「大切な人を守るために、地域を守る」

第十五方面隊第八十三分団（田原）

藤田　竜司

私が消防団に入ったのは、当時の分団長さんから、入団を進められたことがきっかけです。

私の住む熊本市植木町は自然豊かな穏やかで、のんびりとしたスイカの名産地です。

農家である私が消防団に入団し、今年で七年が経ちました。消防団に入団した頃は、先輩消防団員の背中を見て、私も頑張らなければと心に思いながら活動していました。その中で特に感じたことといえば地域のとの繋がりです。

この七年間の間に住宅火災、行方不明者の捜索、操法大会の手伝いと様々な経験をしました。そこにはいつも地域の応援や暖かい手があります。消防の活動に参加する度に地域の方から「いつも大変だね。」、「お疲れ様。」

の声を掛けられたり、日々の中でここでは言い表せないほど多くの様々なコミュニケーションが図られてきました。この大切な地域をこれからも一人の消防団員として守り続けていかなければという思いは大きくなっていくばかりです。

そんな私は、一昨年結婚という人生の転機を迎えました。これまで仕事に消防団活動に頑張ってきた私は、何よりも大切な存在と出会う事ができ、今まで以上に頑張らなくてはと心に決めました。

これからの消防団活動、地域活動、仕事にそれぞれ全力で取り組み、大切な人が安心して暮らせる地域を守る。そのために日頃のポンプ点検や地域とのコミュニケーション、仕事を大事にしていかなければなりません。

消防団ではそれぞれの地区ごとに小型ポンプが設置してあります。私の地区でも小型ポンプの点検をする際には必ず毎回参加し、ポンプの異常がないか確認しながら小型ポンプ

の使い方を勉強しています。いつ起こるか分からない火災、いつでも使えるように訓練しておくことで、いざというとき迅速に行動ができます。

地域とのコミュニケーションは、お互いに顔と名前を覚えることはもちろんのこと、お互いの出来る事をお互いにして支えあい、時には冗談を言って笑い合い、時には困ったことを打ち明け合い、協力し合う。災害時の心強い味方になる地域の方々。日頃から近隣にどんな方が住んでいるのかなど地域一帯となり情報を交換しあうと災害時もすばやく支援し合うことができるようになります。消防団員として、あたりまえのことを続けていく。それは消防団員の原点でもあり、地域の支えです。熊本地震や九州豪雨などの大災害はいつ起こるかわかりません。同じような大災害が発生した際、消防署が一番に来てくれるとは限らない、そういうときこそ消防団です。

私が活動している田原地区では老人介護施

設で消防団と連携した避難訓練を実施しています。我が子をいずれは迎える身として、この連携を小、中学校にも連携してはどうだろうかと考えています。

地域の中にある消防団、様々な場面で一生懸命に活動する仲間達の姿を見るたびに、私は思います。消防団の大切さを。この地域に暮らし、地域を愛する以上、消防団活動に取り組んでいかなくてはならないと。

そういった思いを胸に、地域の声に耳を傾け、仲間達と意見を出し合い地域を良くしていく。

そして、命を預かるこの町では、決して火災や災害は出さない、そう決意し、これから も仲間達と共に地域を守る消防団として、より一層努力していきます。

そして、愛する人のために、地域を守ります。